

私のキャリアパス

私は平成 13 年に徳島大学を卒業後、和歌山県立医科大学で臨床研修を開始しました。初期研修から一貫して脳神経外科に携わり、大学の関連病院で勤務し、脳卒中診療を中心とした臨床経験を積んできました。救急対応や手術に追われる日々の中で、迅速かつ低侵襲な治療の重要性を実感し、次第に脳血管内治療に強い関心を持つようになりました。

平成 19 年に和歌山県立医科大学大学院へ進学し、臨床と並行して研究にも取り組みました。さらに平成 21 年からは神戸先端医療センター血管再生研究科に研究生として在籍し、基礎研究に触れる機会を得ました。臨床とは異なる視点から医療を考える経験は、自分の視野を広げる大きなきっかけとなり、平成 23 年に博士を取得しました。

その後、大学に戻り、助教、講師として臨床・教育・研究に携わってきました。脳血管内治療を専門としながら、学生や若手医師の教育、学会活動にも関わるようになり、役割は少しずつ広がっていきました。すべてを同時に担うことの難しさを感じる場面もありましたが、その都度、今の自分に求められている役割は何かを考えながら、一つずつ向き合ってきたように思います。

私生活では結婚していますが、現在は夫と週末婚という形をとっています。家庭のあり方も一つではなく、その時々で無理のない形を選びながら、仕事を続けてきました。

振り返ってみると、最初から明確なキャリアの設計図があったわけではありません。目の前の仕事に向き合い、立ち止まりながら考えてきたことの積み重ねが、今の自分につながっているのだと思います。

今後の抱負・会員へのメッセージ

今後は、これまでの臨床経験を次世代の教育や学会活動に少しでも還元し、若手医師が安心して学び、悩みを共有できる環境づくりに関われたらと考えています。脳血管内治療は個人の技量が問われる分野であると同時に、チーム医療として支え合いながら成り立つ医療でもあります。

私自身は、家庭よりも仕事を軸にキャリアを築いてきた医師の一人です。一方で、身近には家庭を持ちながら診療を続けている医師もいれば、結婚という形にとらわれず、男性医師と同じように第一線で働き続けている医師もいます。どの道が正しいということはなく、それぞれが置かれた状況の中で、悩みながらも自分なりの選択を重ねて臨床に向き合っているのだと思います。

これからキャリアを築いていく会員の皆さんには、周囲と比べすぎず、自分なりのペースで歩みを進めていてもらえたらと感じています。その積み重ねが、その人にしかない強みや役割につながっていくはずです。

JSNET には、多様な背景や価値観を持つ会員が集まっています。それぞれの歩みが尊重され、互いを認め合いながら、この分野を長く支えていける仲間が増えていけばいいな、と思っています。